

<講師紹介>

新澤 伸子(大阪発達障害総合支援センタースーパーバイザー・梅花女子大学心理こども学部心理学科 教授)
臨床心理士 大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさかのセンター長を、開設以来11年間つとめた。現在は大学で臨床心理士や特別支援教育の教員養成に携わっている。また、北摂杉の子会大阪発達障害総合支援センターにて学校コンサルテーションや研修会の講師を担当。



松上 利男(北摂杉の子会常務理事・大阪発達障害総合支援センター統括)
海外での豊富な研修を踏まえて自閉症などの行動障害に対する施設内での取り組みについて様々な研究や実践をしてきている。平成25年度厚生労働省「障害者の地域生活の推進に何をする検討会」構成委員、共同研究「サービス提供事業所における虐待防止指針及び身体拘束対応指針に関する検討」など



新谷 沙弥香(自閉症療育センターwill 療育支援員 保育士)
児童発達心理学を専攻し、自閉症スペクトラム児への療育と保護者支援を行っている。25年度より児童発達支援センター・児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所への支援を開始。自閉症スペクトラム児への療育だけでなく、本人を取り巻く環境への統合的な支援を行っている。



大澤 佳世子(大阪発達障害総合支援センター研修相談支援室(PASSO)主任 臨床発達心理士)
自閉症の幼児・学齢期の療育、発達検査、家族支援、教育現場のコンサル等を18年行う。最近、小学校高学年から中高生の発達障害の方の支援を専門として、自己理解支援や小集団療育などを実践。幼稚園、小・中学校、高等学校で特別支援教育の研修として教職員研修も担当。



星明 聡志(ジョブジョイントおおさか、ジョブジョイントおおさか-たかつきランチ-所長)
社会福祉士 知的障害、自閉症スペクトラムのある人の地域生活支援として、学齢期の生活・余暇支援、成人期のグループホーム支援、行動障害のある人の日中活動支援、企業への就労支援、飲食店を活用した就労支援等、サービス管理責任者として様々な業務に従事。現在、発達障害のある大学生支援に取り組んでいる。2014年4月より現職。



山根 和史(萩の杜 サービス管理責任者 社会福祉士)
入所施設に勤務し行動に課題のある人の支援に関わる。京都市発達障害者支援センターの立上げを通じ、自閉症者の支援に対する学びを深めた。2007年より萩の杜に勤務。多くの生活支援の実践に取組み、自らの実践に基づくコンサルタント事業を通じて課題解決のアドバイスを行う。



伊名岡 宏(レジデンスなさはら サービス管理責任者 社会福祉士 介護福祉士 精神保健福祉士)
強度行動障害の方に特化したグループホーム「レジデンスなさはら」で日々業務を行いつつ、強度行動障害の方の「地域で生きる」を考えている。またリスクマネージャーとして、ご利用者だけでなく、従業員にも働きやすい職場づくりを目指している。



湯岡 麻美(ジョブサイトひむろ 生活支援員)
大阪教育大学卒 障害児教育を専攻。在学中に、グループ活動や野外活動を通して、発達障害・知的障害のある子どもがソーシャルスキルを学ぶクラスを担当してきた。現在は行動面に課題のある自閉症、重度の知的障害のご利用者の支援に従事している。



木戸 貴之(びれいすBe副施設長 PWS支援者ネットワーク運営委員 介護福祉士)
萩の杜立上げ時から支援員として勤務。特に行動障害のある方に対する支援実績から、大阪府内の他法人のスーパーバイザーとしても活躍。2013年度からは、大阪府サービス管理責任者等研修全体講義の講師も務める。法人内では、2011年度より、萩の杜サービス管理責任者。



堀内 桂(大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさかセンター長 臨床心理士)
自閉症スペクトラム支援士。大阪教育大学大学院卒。1995年より、自閉症児の療育に関わる。大阪市立心身障害者リハビリテーションセンターにて、臨床心理士として発達障害の診断や手帳判定の業務に携わる。2013年4月より現職。



第1回 北摂杉の子会研修セミナー

自閉症スペクトラム障がいのある人への合理的配慮について

～各ライフステージにおける支援事例を通して～

2006年12月13日、国連本会議で「障害者権利条約」が採択されました。この条例で、障害のある人が社会のあらゆる分野で他の人たちと平等に社会参加する上で、「合理的配慮」をしなければならないことが明記されました。

この「障害者権利条約」の採択を受けて、日本においては、昨年6月に「障害者差別解消法」を成立させるなど国内法を整備して、同12月、条約の承認案が国会で正式に承認され、批准が実現されました。

今回の研修セミナーでは、自閉症スペクトラム障害のある人たちへの「合理的配慮」(障害特性の理解に基づいた適切な支援と環境の提供)という視点から、それぞれのライフステージにおける支援の事例を通して、支援現場で活用できる実践的な学びの提供をしたいと考えています。福祉事業所の支援者をはじめ、教育、行政、保護者の皆さまなど、自閉症スペクトラム障害のある人たちへの支援に関心のあるさまざまな方々のご来場をお待ちしております。

■日 時：平成26年7月28日(月) 受付 9:30～
講演 10:00～16:00

平成26年7月29日(火) 受付 10:00～
講演 10:30～16:00

■会 場：高槻市立 生涯学習センター 多目的ホール

■参加費：1日参加¥3000、両日参加¥6000

■定 員：300名

■主 催：社会福祉法人 北摂杉の子会

■申し込み方法は別紙(参加申込用紙)をご参照ください。

<プログラム内容>

*1日目

10:00~11:30 講演①『自閉症スペクトラムの特性について』

講師：大阪発達障害総合支援センター スーパーバイザー

梅花女子大学 心理こども学部心理学科 教授 新澤伸子

自閉症スペクトラムの特性は外から見てわかりにくいいため、「困り感」や「ニーズ」を周りの人たちが理解することを困難にしています。「自閉症スペクトラムの特性」について、共通理解するところからこのセミナーを始めたいと思います。

11:30~12:30

昼休憩

12:30~13:30 講演②『障害者虐待と福祉事業所におけるガバナンス』

講師：社会福祉法人 北摂杉の子会 常務理事 松上利男

障害者虐待における被虐待者の多くが行動的課題のある自閉症スペクトラム障害の人たちであると同時に、事業所におけるガバナンスの課題が指摘されています。この講義では支援の質の向上について、ガバナンスのあり方を通しての学びを深めたいと思います。

13:40~14:40 講演③『地域に生きる子どもたち

～児童発達支援センターの取り組み』

講師：自閉症療育センターwill 療育支援員 新谷沙弥香

地域に生きる子どもたちへの「合理的配慮」とは、施設での療育だけでなく、子どもたちを取り巻く様々な環境の中での統合的な支援といえます。今回は、あるお子さんを通して連携を行った児童発達支援センターとの取り組みについて発表します。

14:50~15:50 講演④『中高生の支援の実際 ～自己理解支援を通して』

講師：研修相談支援室・PASSO 主任 大澤佳世子

自閉症スペクトラム障害の中高生でPASSOの本人支援コースに通所している方の2事例について、2次障害で苦しかった思春期を学校との連携、家庭との連携、そしてご本人への自己理解支援を通して、周囲の本人理解、本人の自己理解が進み自己選択できるようになるまでの軌跡を紹介し、社会に出るまでに、今、必要な支援を提言します。

*2日目

10:30~12:00 講演⑤『自閉症スペクトラムの人への就労支援

～障害学生の支援事例を交えて』

講師：ジョブジョイントおおさか

ジョブジョイントおおさか-たかつきランチ- 所長 星明聡志

効果的な就労準備訓練とは？ソフトスキルを伸ばす支援とは？障害学生（発達障害）にとって必要な支援とは？などについて、ジョブジョイントおおさかの実践を交えつつ、今後求められる就労支援についてお伝えします。

12:00~13:00

昼休憩

13:00~14:40 講演⑥『行動障害の理解と支援の実際～各事業所の取り組み』

報告者：萩の杜 サービス管理責任者 山根和史

レジデンスなさはら サービス管理責任者 伊名岡宏

ジョブサイトひむろ 支援員 湯岡麻美

高槻地域生活総合支援センター ふれいす Be サービス管理責任者 木戸貴之

行動障害への合理的な配慮とは？行動面の課題に対して、どのように向き合い必要な支援をしていくのか。入所施設・通所施設・グループホームなど様々な支援現場での実践を通じて、具体的な方策を提案します。

14:50~15:50 講演⑦『大阪府における地域の支援体制について』

講師：アクトおおさかセンター長 堀内桂

現在アクトおおさかが大阪府と一緒に進めている各ライフステージに応じた支援体制の全体像についてお話しします。